

研修医のための必修知識

C. 産科疾患の診断・治療・管理

Diagnosis, Therapy and Management of Obstetric Disease

1. 異常妊娠

Abnormal Pregnancy

(1) 妊娠悪阻

妊娠の50～80%に悪心、嘔吐が認められる。しかしこれらの症状が悪化して食物摂取が損なわれ、代謝異常を起こして全身状態が障害された状態を妊娠悪阻という。妊娠悪阻では糖質の摂取不足により代謝異常を生じケトン体の産生が促進し血中、尿中アセトン体が増加する。嘔吐などにより電解質、酸塩基平衡の異常を生ずる。

頻度：入院治療を要するものは全妊婦の1%～2%である。

鑑別診断：急性虫垂炎，胃，十二指腸潰瘍，肝疾患，腸閉塞，食中毒，回虫症，胃癌など。

治療

- a. 入院させ現実の環境から隔離し、心身の安静をはかる。
- b. 輸液療法

脱水、電解質、代謝異常が出現した場合、補液量は脱水の程度によるが1日2,000～3,000 mlとし、基本的にはブドウ糖液を用いケトン体の陰性化を図る。電解質異常は嘔吐により血清ナトリウムとクロールの低下が問題となることが多い。水溶性ビタミンB、Cが減少し、糖質を中心とした輸液はビタミンB1の消費を増大するのでビタミンB1の投与(10～100mg/日)は行う(Wernicke脳症の発症防止)。ビタミンB6は悪心、嘔吐を緩和するといわれ、これの補給(5～60mg)も有効である。経静脈投与で改善をみない場合、中心静脈栄養も行われることがあるが、前述のWernicke脳症の発症防止に十分注意を払う必要がある。

c. 薬物療法

妊娠悪阻の症状発現時期は胎児の器官形成期に一致しているため、安易な薬物の使用は行わない。ビタミンB6は嘔吐の軽減に有効。炭酸水素ナトリウムはアシドーシスの改善、悪心、嘔吐。メトクロプラミドは抗ドパミン作用により下部食道括約筋力を増強し、胃食道の逆流を減少させ、消化活動を促し、重症妊娠悪阻に有効といわれる。

—Wernicke-Korsakoff 症候群—

妊娠悪阻によるビタミンB1欠乏で発症し、意識障害、両側外転眼球運動麻痺、運動失調、耳鳴り、難聴などの神経症状、特異な健忘症状を主訴とする疾患。

(2) 切迫流産、流産

流産：妊娠22週未満の妊娠中絶をいう。胎児または母体の病的原因により中絶される場合を自然流産、人工的に中絶される場合を人工流産という。

A. 流産の分類

- a. 妊娠期間による分類：早期流産；妊娠12週未満の流産。後期流産；妊娠12週以降22